

プーチン、ロシア

プーチンとロシア人 木村 汎著 産経新聞出版

第1章 背景

ロシア連邦の国土 1708 万平方キロメートル（日本の約 45 倍）

人口 1 億 4651 万人（日本の 1.1 倍）

天然の障壁（大洋、広く深い川、そびえたち山脈など）で守られていない大陸国家。

「攻め」には弱い代わりに「守り」には強い。19 世紀のナポレオン、20 世紀のヒットラーは、ロシア国土の縦深性によって散々たる目にあった。

雨量に恵まれない国土、農耕に適する地域が少ない。想像を絶する厳しい冬。

不凍港に恵まれない。

プーチンの母親マリアは敬虔なロシア正教の信者。プーチン少年に洗礼を受けさせた。以来、プーチンは十字架を片時も離さず身に付けた。2001 年、ブッシュ米大統領は、スロベニアのリュブリアーナでプーチンと会った時、このことをプーチンから聞き、自分もキリスト教徒であったブッシュは感激、プーチン観を唯物史観に凝り固まった共産主義者から、大きく代え、お互いをファーストネームで呼び合う仲になった。ブッシュは、プーチンの釣り針に見事に引っかかった。

第2章 性格

ロシア人の性格は、相反する二つの衝動を持ち、2つの本能と戦っている。すなわち、一方で、なにものの束縛を受けたくないという自由志向の衝動。他方、そのような衝動に身を任せて飽くことなく自由を充足すれば、ロシア社会には無秩序と混乱がはびこり、自己破綻すら招きかねないという危惧。例えば、現在、プーチンの強権的な政治をロシア国民が概して支持している理由は、ゴルバチョフ、エリツインという 2 大前任政権下に、ロシアが一部自由化し、民主化したこと自体は良かったものの、その代わりに、社会全体は大混乱に陥り、カオスとアナーキーが招来されたという苦々しい体験にもとづく。もし、今日、「あなたは、自由、規律のどちらを選びますか」と尋ねられたならば、後者と答えるロシア国民は 80% 台にも達するだろう。

第3章 政治

プーチンは 1952 年、サンクト・ペテルブルグに誕生。ロシア人としては小柄（成人しても 168 センチの身長）、このため、たとえ非力でも相手の力を利用して勝利することができる柔道を学んだ。

また、KGB に入ったのも、強力なグループに参加して、その一員になるためだった。

第4章 外交

プーチンの対外行動様式の特徴は、第一に、「柔道型」外交。相手方の隙や失策につけいる。第二は、内政上の困難からロシア国民の目を逸らすため「打ち上げ花火」機能を果たす狙いを担っているケースが多い。すなわち、プーチン外交には、必ずしも確固とした原則や戦略など存在しない。時々の国際状況、「力の相関関係」も変化、などを重視する。

第5章 軍事

ソ連人には伝統的な被包囲意識ないし被害者意識に由来する過剰保障癖がある。これは通商面でも顕著。全面的、絶対的な形での安全保障を確保しないと安んじて眠れないという気持ち。

第6章 交渉

交渉は闘争、戦争、武器であり、雄弁や理屈は通ぜず、友情や善意も通ぜず、道徳や倫理にも縛られない。ロシア式交渉法は、まず電撃作戦、ついで牛歩戦術。相手側の事情、お構いなし。

プーチンの国家戦略

小泉 悠著

東京堂出版

2000年版「軍事ドクトリン」

- ・2000年版「軍事ドクトリン」は過渡期の文書であり、21世紀の戦略的環境に適合させる必要がある。
- ・軍事紛争の重点は大規模軍事紛争から局地的紛争や武装紛争へとシフトしている。
- ・NATOや米国の脅威は依然として継続しており、これに加えて大量破壊兵器の拡散や国際テロリズムといった非伝統的脅威が高まってきている。
- ・核抑止の核心は、仮想敵によるロシア連邦及びその同盟国への侵略に対して核抑止を及ぼすことのできる核大国としての地位をロシア連邦が保全することである。
- ・核使用基準を変更し、地域紛争や局地紛争であっても通常兵器による攻撃を撃退するために核兵器を使用することを盛り込む。
- ・国家安全保障にとって危機的な状況では、侵略者に対する予防的な核攻撃も排除されない。

クリミア介入を決めた4人組

2014年2月のクリミア介入は、たった4人で決定されたという。その4人とは、プーチン大統領、イワノフ大統領府長官（当時）、ポルトにコフ連邦保安庁長官、バトルシェフ安全保障会議書記である。この4人には共通点がある。全員がソ連時代のKGB（国家保安院会）出身者ということだ。ここには介入の主体となる軍の関係者、ショイグ国防相さえ含まれて

いない。

地下鉄にて

「失礼ですが、あなたはサンクトペテルブルグのご出身ですか？」

「いいえ」

「では前はKGBに勤務しておいでで？」

「違いますが」

「ならば足どけろ、この野郎、俺の靴を踏んでいるんだよ！」

ロシアのユーモア

川崎（とおる）著

講談社選書メチエ

反共産主義者とはだれを指すのか

「共産主義者とはだれを指すのか」

「共産主義者とは、マルクスとレーニンの本をすべて読んだ者のことである」

「では、反共産主義者とはだれを指すのか」

「反共産主義者とは、マルクスとレーニンのすべてを理解した者のことである」

KGB

「もしもし、KGBですか？」

「いいえ、火事で焼けましたので、ありません」

再び電話。

「もしもし、KGBですか？」

「いいえ、KGBは火事で焼けました」

またしても電話がかかった。

「もしもし、KGBですか？」

「あなたにはもう言ったではありませんか。KGBは焼けたんだって」

「それを聞くのが楽しいものですから」

フルフチョフ

フルフチョフが壇上から独裁者スターリンを始めて批判し、スターリンの専横ぶりを数え上げたとき、出席した党委員の中から声が上がった。

「その時、あなたは何をしていたのですか？」

すると即座にフルフチョフが応じた。

「今発言したのは誰か、挙手していただきたい」

だれも挙手するものがいなかったため、フルフチョフは答えた。

「今のあなたと同じように、私も黙っていた」